

会 議 記 録

次の審議会（協議会）を下記のとおり開催したので報告します。

審議会等名称	令和元年度 第2回近江八幡市総合教育会議		
開催日時	令和元年12月2日（月） 9時30分～11時00分		
開催場所	近江八幡市役所3階 市長応接室		
出席者 ※会長等◎ 副会長等○	<p>出席者（敬称略）</p> <p>市 長 小西理（◎）</p> <p>教育長 日岡昇</p> <p>教育長職務代理者 久家昌代</p> <p>教育委員会委員 八耳哲也、安倍映子、西田佳成</p> <p>（欠席者）なし</p> <p>◇傍聴者 0名</p>		
次回開催予定日	未定		
問い合わせ先	<p>所属名、担当者名 総合政策部企画課 万野</p> <p>電話番号 0748-36-5527</p> <p>メールアドレス 010202@city.omihachiman.lg.jp</p>		
会議記録	発言記録・ 要約	要約 した 理由	内容を整理して、わかりやすく記録として残すため
内容	別紙のとおり		

担当課⇒総務課

事務局

1. 開会

市長

2. あいさつ

- 新たに就任いただく西田委員を含め、4名の皆さまには教育行政の推進にご尽力賜りたい。

3. 自己紹介（市長及び教育委員）

4. 議題

(1) インクルーシブ教育に対応した教育環境と学校施設の長寿命化について

教育委員会
事務局

- 資料1に基づき、学校施設の長寿命化に合わせたユニバーサル化の対応方針について説明

小中学校施設のユニバーサルデザイン化等の状況として、学校施設におけるエレベーター設置等の状況を報告。また、今後の方針として、長寿命化計画に沿った大規模工事に合わせてユニバーサルデザイン化を進めていくこと、個々の状況・症状にはその都度最大限の対策をすることについて説明。

委員

- 公立学校とは、地域の子ども全員を受け入れること、地域を巻き込みながら運営すること、行政が責任をもつことが大原則と考える。
- これからは教育と福祉の場として、ソフト・ハードの両面の対策について、行政全体で具体的に見通しをもって進めてほしい。

委員

- 本市のインクルーシブ教育の状況について説明いただきたい。

教育委員会
事務局

- 個別支援を行う特別支援員の必要数の確保が困難な中、子どもの自立・学力向上・生活力向上を目指し、地域において共に学べる公立学校を目指していることについて説明。

委員

- 本市では特別支援教育をこれまで充実させてきており、本市の教育に期待をもって、本市の教育で育てたい親、育ちたい子どもがたくさんいる。さらに強化させていくため、障がい児も自発的に動ける環境整備に加え、支える人員配置は必要である。

委員

- 子どもたちは主体的な関わりの中で自ら学ぶことにより、主体的に生きることに繋がる。インクルーシブ教育を推進する近江八幡市に向け、地域の希望する子どもたち全員が学べる学校になってほしい。
- 障がい児以外の子どもたちも刺激を受け、成長できる。自分の子どもでも地域の学校を選ぶだろう。それぞれの症状に合った必要な対策をして

委員	<p>ほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 自分自身も今までの友だちと同じ学校に行きたいと思う。中長期的には長寿命化計画に合わせてエレベーターを設置していくとしても、階段昇降機を設置するなど臨機応変にも対応いただきたい。
市長	<ul style="list-style-type: none"> ● 小学校は学力もさることながら、人を育むところである。障がい児の方に触れ合うことで学べること、気づけることもたくさんあると思う。障がい児の方が通えるだけでなく、学校に通う子どもたち全員のためにも必要なことと考える。
教育長	<ul style="list-style-type: none"> ● 本市には課題がたくさんあるが、計画に沿って進めていきたい。 ● 今後も対象者が増えていく中、バリアフリー化対応済みの学校に行ってもらえばどうかという意見もあったが、地域の学校に通ってもらうことが重要である。 ● 学校現場において、支援が必要な子どもだけでなく回りの子どもも成長した経験がある。学校では学力だけでなく、思いやりや心の育ちなど非認知能力を育てることが大切と考える。特別支援教育に関する環境整備は、障がい児だけでなく、回りで支える子どものためにも必要なことである。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 八幡小学校にエレベーターを設置するこの機会に、障がい者に対する市民意識を底上げすることも必要である。 ● 学校施設のICTの充実も必要なので、限りある予算の見通しが立つよう年次的な具体的な整備計画は必要である。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 11.6%の支援が必要な子どもたちに対応するためには、幼小中の関係性や連携を深めていく必要がある。予算が必要であるが、学校教育における人的配置と、専門性や質の向上に取り組むことは必要である。
市長	<ul style="list-style-type: none"> ● 市民の思いは一律ではなく、学力を求めている親御さんもたくさんいる。 ● 市民のコンセンサスを得る必要があり、市民を巻き込んで、近江八幡市としての教育の方向性を打ち出すことが必要と考える。
<p>(2) 放課後子ども総合プランの策定について</p>	
教育委員会事務局	<ul style="list-style-type: none"> ● 資料2に基づき、放課後児童クラブと放課後子ども教室の一体的な居場所の確保方針について説明 <ul style="list-style-type: none"> 現在4カ所の小学校で実施しているコミュニティスクールの設置を進め、学校運営協議会において地域の実情に沿った放課後子ども教室のあり方を協議した上で、全小学校に設置する目標について説明。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 家にいるとゲームばかりになってしまいがちなので、放課後子ども教室があったら行かせると思う。しかし、帰宅時の安全については不安がある。

- | | |
|-----------|---|
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> ● 放課後子ども教室の中で、子どもらしい遊びを経験できればより良い。遊びの中で人間性や心が形成されるので、子どもたち同士の接点が増えるのは良いことである。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> ● 子ども同士に加え、親、地域も参画するようであれば、みんなが学び合える、育ち合えるまちになる。経営主体、責任所在の位置づけが難しいが、地域みんなで子どもの命を守り、子どもを育てる体制について考えていけると良い。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> ● 昔はラジオ体操後にも子ども同士が外で遊んでいた。放課後子ども教室は大事な取組だが、具体的なものが見えていない。 ● 放課後児童クラブと放課後子ども教室の一体的な居場所をめざすなら、名称だけでも統一してはどうか。 |
| 市長 | <ul style="list-style-type: none"> ● 方向性は良いが、国の考え方では子どもに焦点が当たっていない。 ● 子どもたちの視点で中身を考えていかないといけない。ゲーム以外に、楽しいと思える、ワクワクする、プラスになるような居場所をつくってあげたい。 |
| 教育長 | <ul style="list-style-type: none"> ● 学校施設を使うべきと考えるが、安心安全への責任の所在が課題になる。地域のコミセン等が主体となって、学校施設で事業実施する形が望ましいのではないかと思う。 ● 子どもが目を輝かして参加する事業にしていくためには、全小学校への設置が目標ではあるが、子どもたちがやりたいと言う学校に設置してあげると良い。 |
| 市長
教育長 | <ul style="list-style-type: none"> ● 放課後は教育委員会の管理下となる責任体制にしてはどうか。 ● 家に帰宅する際の子どもの安全も考えていかないといけない。 ● 指導者の確保も課題であるが、高齢者だけでなく、休日等には母親の力も得られるように取り組めると良い。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> ● 国の方向性には拘らず、近江八幡市独自の子どもたちの放課後の居場所を、みんなで知恵を出してつくってあげると良い。 |
| 委員
教育長 | <ul style="list-style-type: none"> ● 楽しい遊び場、放課後の集まりの場になればいいなと思う。 ● 大人が場を設定するだけでなく、子どもたちにも考えさせることが大事である。子どもたちが自分たちで何かできる、経験できるような形になると良い。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> ● 今の社会は管理的な環境の中に子どもたちを追い込んでいるため、居場所もつくってあげないといけない。放課後子ども教室には、縦と横の関係を見つめ直す機会、地域の人に出会っていく機会を盛り込んでいただきたい。 ● とても難しいことだが、管理的にならず、子どもの喜び、楽しみを大事にしていかないと本物にはならない。 |
| 市長 | <ul style="list-style-type: none"> ● 子ども自身にも安全に遊ぶことに責任を求めつつ、遊び場として学校を |

委員

開放してはどうか。

- 習い事などで忙しい子どもは、参加は難しいと思う。自分の子どもには、そのような場があるならば行かせてあげたい。

市長

- 「放課後学校あそび場」のような取組はどうか。地域の人が、学校の教室を使って、出店みたいな形でビー玉や折り紙などの遊びを子どもたちと一緒にするような取組である。
- 考えすぎずに、何かやってみたらどうかと思う。
- 本日の意見交換を受けて、事務局にて考えていただきたい。

(3) その他

教育長

- 総合教育会議の場を、教育現場に出向いて実施してはどうか。授業の様子が以前と随分変わってきている。

市長

- 授業参観を含め、実施する方向で検討ください。

終了 11時00分